

かい づか えい の すけ
貝塚栄之助

貝塚栄之助 (1882 ~ 1947)
出典：『高岳製作所60年史』

高岳製作所を創設し初代桑名市長を務めた貝塚栄之助は、桑名の素封家、貝塚卯之助の三男として、1882(明治15)年8月に生まれた。

津中学を経て、1910年に東京高等工業学校(現東京工業大学)電気化学科を卒業した。卒業後は、父の友人下出民義の紹介で、名古屋電灯の技師として入社し、市内供給の重要拠点、萩野変電所長を務めた。

その後、名古屋電灯を辞し、1年余松阪工業高校電気科で教鞭をとったが、1915(大正4)年3月、父卯兵衛が逝去して家督を継ぎ、貝塚家の当主となった。父卯兵衛は、桑名の米穀取引所仲買人として活躍し、米相場で財をなし、

1896年、洋式紡績器を導入した桑名紡績

■高岳製作所の初代社長

貝塚栄之助は、父から譲り受けた資産を基に、桑名電気軌道、桑名瓦斯、桑名精工、など地元事業の社長を務め、1918(大正7)年3月には中部地方の電力機器製造の草分けである高岳製作所を創設、23年間社長を務めた。同社は、貝塚の東京高等工業時代の友人で名古屋電灯の同僚でもあった佐々木綱雄との共同事業で、電気機器国産化を目指した会社であった。当初柱上変圧器を製作して名古屋電灯に納入したが、その後断路器、遮断器、配電盤等を手がけ、静止電力機器の総合

メーカーとして発展した。



元桑名市長貝塚栄之助氏頌徳碑

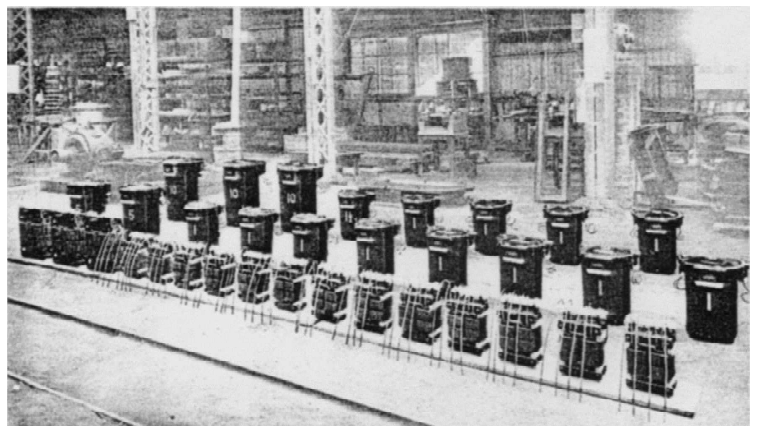
写真：筆者撮影

桑名の名望家の責務を担って —初代桑名市長は電気技術者—



高丘町時代の高岳製作所

出典：『高岳製作所60年史』



高岳製作所の変圧器工場

出典：『高岳製作所60年史』

■初代桑名市長

貝塚栄之助は、1934(昭和9)年には桑名町長に推され、1937年、桑名の市制実施とともに、初代桑名市長に就任、1945年6月迄の8年間市長を務め、戦時下の困難のなか市政に尽くした。1945年の終戦とともに市長を辞し、1947年暮、財産税と農地解放の打撃のなか、65歳で急死した。

歴史学者(東洋史)貝塚茂樹(湯川秀樹の兄)は、貝塚栄之助の長女美代と結婚、1945年貝塚家の養子となった。

桑名市役所前には、「元市長貝塚栄之助氏頌徳碑」と記された銅像が建っている。

(浅野伸一)